

# ♪ 月わが家のアイドル ♪



**桜井町**  
**福崎** あとお 碧人ちゃん(3歳7カ月)  
るい 琉生ちゃん(1歳2カ月)  
れい 玲生ちゃん(1歳2カ月)  
 いつも賑やか三兄弟!兄弟仲良く大きくなってね。



**清水町**  
**浦田** かのあ 夏乃愛ちゃん(1歳3カ月)  
 いつも、ニコニコ笑顔。  
 元気に育ってねー♡



**若松町**  
**竹林** めい 芽依ちゃん(1歳10カ月)  
ささえ 紗英ちゃん(4カ月)  
 仲良く元気に大きくなーれ♪

## 宛先

	5	8	4	-	8	5	1	1
住所・氏名(ふりがな)・電話番号	富田林市役所 常盤町1番1号 情報公開課広報係							

# みんなの広場

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、**メッセージ(20字程度)**を添え、**住所**、保護者とお子さんの**名前(ふりがな)**、**撮影時の年齢(月齢)**、**電話番号**を記入し、封書で左記の宛先まで応募してください。

また、市ウェブサイトからもご応募いただけます(右図のQRコードから応募ページにアクセスできます)。  
 なお、今応募された場合、掲載は約5カ月後になります。



**木戸山町**  
**浅田** ひろ 丈ちゃん(3カ月)  
 待望の赤ちゃん♡名前の通り丈夫に育ってね

## 俳句

俳句のコーナーは、都合によりしばらくの間、休ませていただきます。毎回お楽しみにされている皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。  
 ※平成31年4月号は「川柳」を掲載します。  
 (なお、応募は2月28日で締め切りました。)

川柳・短歌は、それぞれ別のはがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限り、作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。  
 5月号の「短歌」は3月31日(日)、7月号の「川柳(宿題「横」)」は5月31日(金)までに応募(いずれも必着)してください。  
 宛先は上記をご覧ください。



**藤沢台**  
**隅野** ふう 風ちゃん(9歳)  
あめ 雨ちゃん(5カ月)  
ぜん 然ちゃん(11歳)  
 アイドル誕生♪笑顔がまた一つ増えました☆

## 紅の装い

江戸時代の遺跡から出土する特徴的な物の一つに化粧道具があります。もちろん江戸時代以前に無かったわけではありませんが、庶民に手が出る物ではありませんでした。

江戸時代の化粧方法は主に白粉化粧、眉化粧、紅化粧、お歯黒（既婚の印に歯を黒く染める）化粧がありました。

今回は江戸時代の化粧道具の中で、も中野北遺跡から出土した「肥前磁器赤絵紅猪口」（写真）をご紹介します。



「肥前磁器」は肥前国（現在の佐賀県と長崎県）で焼かれた磁器、「赤絵」は赤色の文様、「紅猪口」が用途と形を表しています。今でいう口紅のケースで、高さ2.5センチ、口径3.5センチの小型のお茶碗形をしています。

紅は高価であるため、器に満杯ではなく刷毛で薄く塗り入れたものを販売していました。紅猪口の他には紅皿・紅板と呼ばれる紅容器も使われていました。

さて、写真の紅猪口ですが、外側には文字が記されています。割れているため部分的にしか読めませんが「と起ハ」

## トポレ掘発財文化蔵埋

「橋南詰」と読めます。文献によると大坂の町には常盤（と起ハ）紅という紅屋があったことが分かっています。そして、「：橋南詰」は〇〇橋の南詰にお店があることを示しています。

このように紅容器に紅屋の宣伝を記したものが遺跡からよく出土します。

江戸時代の化粧業界も現代同様の販売争いが繰り広げられており、容器にお店の名前や場所、紅のブランド名などを描いて広告としていました。

代表的な紅化粧の一つとして江戸時代に大流行した「笹色紅化粧」があります。紅を塗り重ねると玉虫（金緑）色に発色することを利用した紅をふんだんに使う贅沢な化粧法で、下唇にのみ施します（ちなみに、上唇は紅色です）。

もちろん庶民はこのような贅沢ができないため、流行の化粧法に近づくべく、新しい化粧法を編み出します。下地に墨を塗り、その上に紅を塗ると墨に含まれる油分によって鈍く光ります。これにより、「笹色紅化粧」に近い効果を得られました。

今回ご紹介した紅猪口がどの誰によって使われていたものかは分かりませんが、いつの時代も変わらぬ美への思いが垣間見える出土品です。

文化財課（内線507）

## わがまちこのひと

今もまだ成長の途中

今回は、平成30年度の全日本卓球選手権大会（マスターズの部）女子シングルスでのベスト8をはじめ、卓球のさまざまな大会で優勝や上位入賞をされている岡田 りり子さん（65歳）をご紹介します。

岡田さんが卓球を始められたのは中学1年生の頃。「ピンポン感覚で楽しくできた」と卓球部に入部されたのがきっかけだったそうです。

ところが、入部した卓球部には、とても指導熱心な顧問の先生がおられたそうで、運動が得意だった岡田さんは目を掛けられ、特に厳しい指導を受け、あまりの厳しさに泣きながら帰る日も多かったそうです。

その厳しい指導に耐えた岡田さんの頑張りや実を結ぶのは、中学2年生の秋のこと。「先生に叱咤激励されながら、大阪府の大会で団体優勝をしたときの感動は今でも忘れられない」と話される岡田さんの顔には昔を懐かしむような笑顔が見られました。

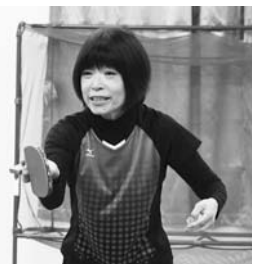
その後、時には楽しみながら、時には大会に向けて過酷な練習メニューをこなしながら卓球を続けられた岡田さんは、大学時代には全日本卓球選手権大会（一般の部）にも出場されたそうです。

そんな輝かしい経歴を持つ岡田さんに、今後の目標について伺いますと、

「去年の全日本卓球選手権大会ではベスト8で負けてしまったが、良い試合ができた。今年はベスト4をめざしたい」「今はフットワークを生かしたスタイルだが、フットワークに頼らないスタイルも身に付けていきたい」と話されました。

また、岡田さんはとても負けず嫌いなところがあるそうで、「勝ち負けのある卓球で、勝てるか分からない相手とドキドキしながら試合するのはとても楽しい。試合で勝ちたいから、常に目標をもって練習に取り組んでいる」と優しそうな雰囲気からは分かっていなかった熱い一面も垣間見られました。試合に勝つための準備で「練習でも今までできなかったことができるようになるのが今も昔もとても嬉しい。この歳だが、まだまだ上達できると思う」と話される岡田さんの表情はとて若々しく、こちらも元気をいただきました。

これからさらなるご活躍を期待しています！



藤沢台 岡田 りり子さん